

# 年頭に思う

## 豊かさの中の貧しさ

黒田成子

近年日本の高度経済成長にともない、海外では日本人の国民性が話題になっていいる。かつては日本人といえば、勤勉で努力を惜しまない国民とされていた。ところが最近はどうも主義の生産者、ぬじめのないセールス・マンというイメージに変わりつつあり、ありがたくもないエコノミック・アニマルの名前まで出てくるようになった。

海外の評判などは気にしないとしても、そこに一面の真理があることに気づくときに考えさせられる。まして日本人としてわれわれはどう生きてきたかという問題になってくると、これは一笑にふしてしまうわけにはいかない大きい問題である。

### ★教育の本質について

日本人は能力のある優秀な国民であるとわれわれは自負している。何かをつくり出さずにはおかない、そしてまた、何かを獲得しないではいられない、研究的、生産的な国民なのである。ところがこの有能さに権力思想や形式主義が加わると、ものごとの本質がみえなくなってしまう。

たとえば日常生活の中であとをたない無数の不祥事件も、種々の原因があるだろうが、もとをただせば金や権力が先にきて、ものごとの本質があとにくるからではないだろうか。発見されなければ悪事もまかり通るという考え方が一種の処世術にもなっているのではないかとさえ思われる。文化人類学者などに日本の文化は恥の文化であり、罪意識に欠けるといわれる理由もここにあるのかもしれない。

公害日本がつくり出している悲惨な問題も、人間性が無視されて、経済成長が真先にくるからである。中教審答申の問題にしても、またそれをめぐる論争にしても、子どもの問題でありながら子ども不在のまま、マス・コミのトップ・ニュース的な問題としてとらえられているのではないか。子どもそのものより、そこには産業界の要請とか、管轄官庁の立場とか、早期教育開発論とか、さまざまなのが原動力となっている。それらは幼児そのものにかかわる理解や体験より、もっぱら幼児教育周辺のことに関心が走る。その方がアップ・ツー・デートで

あり、また、立派にも見えるものである。幼児教育は脚光をあびて、もてはやされるが、実際に育ちつつある子どもは忘れられているのではないだろうか。第三の教育改革などと呼び声は高いが、その内容は何か不明である。いぜんとしてクラス四十人以下を原則とする設置基準をたてに、子どもたちは詰め込まれている現状である。年頭にあたり、まず教育の本質ということをもういちど問い直してみたいと思うのは私だけではないと思う。

#### ★価値感をめぐって

現代の子どもは何にもっとも興味をもっているだろうか。タレント、怪獣、お金、等トップにあげることができる。今の子どもはたくましい現実感覚をもっているが、それだけでは人間形成のうえに不足なものがあるように思われる。

先日私が毎日曜日接している小学校一、二年生の子どもを付近の教会のバザーへ連れていったときのことである。バスに乗るため二十二名の子どもから十五円ずつ集めたが、二名は持たないというので私がたてかえることにした。ところが、バザーの場所に着くといちはやく食券を買っているのはその子どもであった。「I君、さっきお金もっていないっていったのに」というと、「ボク、もっていないなんていわなかった。バス代がないっていっただけだよ」とすましている。つまりお小

づかいの三百円はしっかり握っていてバス代はカンケイないというわけである。

こうした子どもたちのものに対する執着心の強さと、頭の回転の早さには驚くばかりである。六、七歳の子どもたちがお年玉の予算をたてるのに懸命であり、思ったとおりにもらえないと相手を軽く見たりする。眼を輝かせながらシュバイツァーの話を聞き入り、人には親切にと口ではいえても、相手に対する思いやりはなかなか見られない。話は話であり、生活とは別のこととみえる。四年生の子どもが祖母の死をつげると友だちはなぐさめているつもりなのか「死んだのはママでなくておばあさんでよかったね」という。かけがえのない一人の生命の重みなど全く感じていないらしい。五年生の女の子が食欲がすまない。結婚の相手がなかったらどうしよう、新居をたてる土地のことなど真顔で心配している。

こうした表情に出会ってどこかで、何かが狂っていると私たちはなげく。ところが現代の親たちの意識調査にも同じような結果が表われている。私たち教育者たちもそうなのかもしれない。

発達のみにて、幼児は善悪に関するものの考え方、判断力は未分化であるといわれる。子どものおかれた環境より影響を受け、周囲のおとなたちが善とするものを善とし、悪とするもの

を悪とし、何に価値をおくかということはその属している集団のありかたにかかわるのである。世界の不評をかうに至った現代の日本人は何にもっとも魅力を感じ、何に価値感をおいて生きているのだろうか。ある人が現在の日本を称して「豊かさの中にある貧困の姿である」といった。経済成長を誇ってもその豊かさを駆使する人間そのもののあり方が貧しければ何の意味があるだろうか。

### ★ボランティア精神を

今の子どもは母親から用事を頼まれるとすぐ「いくら、くれる？」という。トクにならないことで人は動かないらしい。母親たちも刺繍の講習会とか趣味や教養やおたのしみの会合には外出するが、奉仕活動等には足が向かない。近ごろは奉仕という言葉もピンとこない人が多くなっている。先日ある地下鉄駅の近くで学生数人に「〇〇奉仕センター」の場所をたずねた。すると「ホウシ、センター?」「ホウシってなんだい?」と学生たちはガヤガヤと話し合う。文字をかいてみると「ああなんだ奉仕か」とやっとわかったような顔をしたので驚いたことがあった。奉仕の精神とか voluntary の気持というのは人からいられるものではなく、全く任意の、自発的なものである。今の日本の多くのマイ・ホーム主義の家々ではこのことが全く自己のために行なわれている。このことがなぜ人のためになされ

ないのだろうか。ボランティア精神といっても私はべつに道德の徳目を教えてほしいとはいっていない。徳目のように知識的、静的なものではなく、いきな生活そのものを見直してみようといっているのである。たとえばどのように食事をし、着物を着掃除をし、車を運転し、どのように保育をし、電話をかけ、同僚とのやりとりをするか……そうした中で子どもたちは価値感を日ごとく見ぬいて身につけていく。そうすると親や教師はますますボランティア精神をもっているかどうかが問われてくる。

昨今こうした精神を家庭や学校で身につけさせることはなかなかむずかしくなり、わずかにクラブ活動とか、スカウト活動等でみられる程度であろうか。ボランティア精神どころか、バスや電車の中で子どもが大声で騒いだりしても何もいえない私たちおとなの沈滞した空気はどうにも仕方のないことなのかと考えさせられる。

### ★異質集団の中で

今の幼児教育には優秀児や特定の階層の子どもなど、同質の子どもだけを集める傾向がみられる。いわゆるエリート主義、選別主義というようなことは中教審の答申をまつまでもなく、すでに幼児教育の中にはいり込んできている。

時に軽い程度の障害児をあずかってほしいと頼んでも園長は顔を曇らせる。主旨には賛成だが父兄から反対が出るからとか、

手が足りないからとか……断わりの返答はいつもきまっている。障害児のためには普通児集団の中での生活はぜひ必要である。ことに行き場のない中間児にとっては集団生活で伸びる可能性がある。しかし、彼らのためばかりでなく、普通児自身のためにも障害児や問題をもった子どもとの生活が必要である。人と仲良くしようという徳目的な教訓をとえ、あとは忘れていくような保育者や子どもたちのために、むしろ問題をもった子どもが必要なのである。お互い同志の思いやりというものはどこかで共通の基盤に立たなければ得られないものである。それは頭でおぼえるようなことではなく生活経験として体得していくものである。わたしたちはそのような場を子どもたちに提供しているだろうか。

### ★子どものための教育を

海外では神学者や教育者の中で「関係の言語」ということが大分以前からさかんにいわれている。つまり言葉というものを人格的な相互関係で深くとらえようとするものである。ものごとの本質的な意味が知られるためには語られる言葉そのものより、その言葉の背後にあるものが事実として経験されていなければならぬ。そうすれば子どもは言葉をおぼえる以前にその意味を知ることである。すでにわたしたちがある程度は経験していることであるが、こうしたことが新しいアプローチで

今の時代においてあらためて問い直されていることに私はひじょうな興味と意義を感じるのである。しかも、子どもたちがそれらの価値感を把握していくそのとらえ方は教授という形ではなく、その属している集団や共同体の中での自然なやりとりで身につくものである。

私が記していることは抽象的にきこえるかもしれない。しかし、私はこれほど自明なこと、これほど具体的なことはないと思う。今日の政治や社会をなっている人々のものであろう。根本は、彼らがかつて幼い日に身につけたものであろう。今の子どもたちが得ていく考え方はやがて将来の日本を動かす人々のものであろう。

年頭にあたり幼児教育界にのぞむものとしては保育内容の科  
学化、幼小の連けい等多くのことを提言されるだろう。しかしそれらすべての対象となる子どもそのものを抜きにしては考えられないのである。このときに彼らをささえる心の問題について、あらためて具体的、経済的に思考する時がすでにきている。日本人の社会的態度や人格的倫理性の「貧しさ」が問題にされるが、このことこそ、取り組まなければならない課題ではなからうか。

(東洋英和女学院短期大学)